

普及だより



農業振興課 〒798-8511 宇和島市天神町7-1 TEL: 0895-28-6145 FAX: 0895-22-1881
 鬼北農業指導班 〒798-1331 鬼北町大字興野々1880 TEL: 0895-45-0037 FAX: 0895-45-3152
 愛南農業指導班 〒798-4194 愛南町城辺甲2420 TEL: 0895-72-0149 FAX: 0895-73-0319

宇和島市三間町の2地区で集落営農組織が法人設立

地域農業育成室は、農地集積による儲かる水田農業を推進していますが、その一環で集落営農の法人化をサポートし、昨年9月末には宇和島市三間町黒川、是能の2地区で農事組合法人が設立されました。

○9月10日：「農事組合法人黒川」（構成員16人、経営面積7ha）

○9月12日：「農事組合法人これよし」（構成員31人、経営面積20ha）

当室では、5年前から担い手不足と高齢化に悩む両地区での意向調査を踏まえ、発起人会など数多くの協議の場において、集落の合意形成や営農ビジョン作成など農業者らへの指導を展開しています。

今後、両地区とも補助事業を活用した農地基盤整備に取り組むこととしており、「ひめの凜」や「さといも」など、高収益作物の導入や経営管理指導等を通じた、農事組合法人の経営安定にむけた活動支援をしていきます。【地域農業育成室】



【農事組合法人黒川】



【農事組合法人これよし】

新たな販路開拓にむけ「農産物等販売マッチング交流会」を開催

コロナ禍における農産物等の販売促進と新たな販路開拓を支援するため、南予地方局と八幡浜支局では、「農産物等販売マッチング交流会」を開催しました。

当日は、売れる商品づくりやECサイトを活用した効果的な販売手法について、講師を招いた研修を行ったほか、ECサイトを活用して他の農業者の農産物等も併せて販売する「地域商社的農業者」と販路拡大に取り組みたい生産者とのマッチングを行い、参加者からは「今後の具体的な商談に向けた良いきっかけ作りの場になった」との意見がありました。【産地戦略推進室】



【(株)ミーティン・クラフト池田講師による研修】



【生産者と地域商社的農業者のマッチング】

北宇和高校生による松野町産完熟南高梅を使った商品開発を支援

産地戦略推進室では、県内有数の産地である松野のうめの産地振興に繋げるため、うめを使った商品開発を推進しています。その一環として、地元の北宇和高等学校生産食品科の生徒らによる商品開発を支援しており、このほど、オリジナルの「うめジャム」が完成しました。

生徒らは、加工方法や栽培、収穫などを学ぶ研修会を通じて、地元の特産品である完熟南高梅について理解を深め、試行錯誤を重ねながら魅力的な商品を作り上げました。商品には、実際に生徒らが研修会で収穫したうめが使用されています。

今後は、松野町のうめの魅力が多くの方に伝わるよう、地域イベント等の場を活用して、販売を支援していきます。【産地戦略推進室】



【加工方法について研修】



【収穫を体験】



【完成した「うめジャム」】

青年農業者がため池の水質改善に奮闘中

愛南農業指導班は、愛南地区青年農業者協議会を対象に「青年農林漁業者ステップアップ活動支援事業」を活用したプロジェクト活動を支援し、昨年度から農業用ため池の水質改善に取り組んでいます。

ため池では夏場を中心にアオコが発生し、かん水や防除の際に目詰まりの原因となるなど地域の問題となっています。そこで水質浄化作用が期待できるマコモダケを浮島として浮かべることで、栄養塩類の吸着や水温上昇を抑制し水質改善を図ろうと、会員を中心に関係者 15 名でマコモダケの浮島を製作、設置しました。

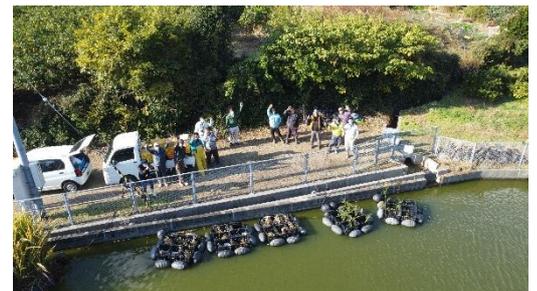
設置後は、定期的のため池の水質調査を実施し、改善効果を検証中ですが、当班は調査方法等をアドバイスしながら活動をサポートしています。同会では、良い結果が出れば、来年度のプロジェクト発表会で報告したいと意気込んでいます。【愛南農業指導班】



【浮島を製作する会員】



【マコモダケの浮島】



【作成した浮島と会員】

さといもの防除をもっと楽に！

さといもでは、無人航空機で散布できる薬剤が適用拡大されたことを受け、昨年8月26日、宇和島市三間町でドローン防除の実演会を開催しました。

当日は20aの防除が約5分で終了し、これまでの防除作業と比べると65%の時間短縮になることが確認できました。また、薬液がすぐに乾くので、薬害の発生も少なくなるようです。

立ち会った園主からは「さといも栽培では夏場の防除作業が一番大変。ドローンで散布できるようになればとても楽になる。」といった声があがりました。

今後も関係機関と連携しながら、セル苗を使った優良種苗の確保、生育調査を通じた収量・品質の向上、サトイモ疫病の発生防止などに取り組み、さといもの産地づくりを通じて儲かる水田農業の実現を図っていきます。【地域農業育成室】



【ドローン防除の実演会を開催】



【2m越えのサトイモの葉】

河内晩柑は正しい苗木の植付けをしましょう！

愛南町の河内晩柑は導入から約50年が経過し、樹高の高い樹が多くなっています。このような樹は、収穫時の樹登りや三脚使用により作業時間が長くなるだけでなく、落下事故等も懸念されます。

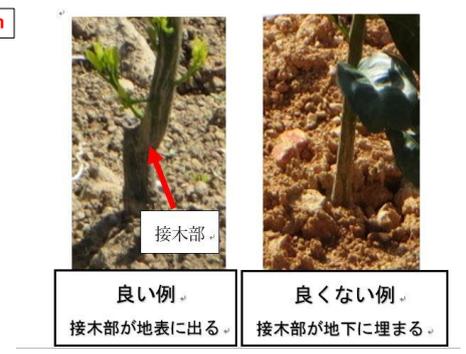
高樹高化した原因の一つとして、河内晩柑自身の根「自根」の発生が考えられています。一般的にかんきつ類は、樹をコンパクトにするため、カラタチ等を台木に接ぎ木した苗で栽培していますが、「自根」の発生でその効果が失われます。園地巡回で「自根」の発生状況を確認したところ、調査園数の約80%、調査本数の約20%で発生がみられました。「自根」の発生は植付け1～2年で多く見られるという報告もあることから、深植えにならないように「かんきつ類の植付け方法」のパンフレットを作成し、生産者への配付と町のホームページを活用した広報活動に取り組んでいます。河内晩柑の低樹高化に取り組んで、楽に収穫できる園地づくりを目指しましょう。【愛南農業指導班】



【左側が自根】



【自根の発生した樹】



【苗木植付けパンフレット（抜粋）】

ハウスきゅうり整枝法改善による生産性向上 (ハウス内部の機能性向上実施)

鬼北地域のハウスきゅうりは、露地用アーチをハウス内に設置する整枝法(写真1)が主流でしたが、アーチ内の日照不足による流れ果や誘引ネットによる傷果が発生していました。

そこで、日照量確保と傷果の減少が見込める「1条振分摘芯整枝法」導入のため、ハウス内にタイバー(逆T)を設置する改修を行いました(写真2)。施工及び整枝方法は、写真2の赤線のように、直管を天井から逆Tに組み、逆Tに向け1畝に各3本の支柱を2m置きに立て、両側の支柱にひもを張り、子づる孫づるを誘引していく方法です。

従来型整枝法は、12月14日で収穫終了となりましたが、本整枝法は流れ果が少なく、1月4日まで収穫でき、収量は2倍、傷果・曲がり果も少なくなり、正品率は7%向上しました。実証農家からは、「この整枝法は収量も向上し、子づる孫づるが、立体的に外側に伸長することから果実が見えやすく収穫しやすい」という評価を得ました。

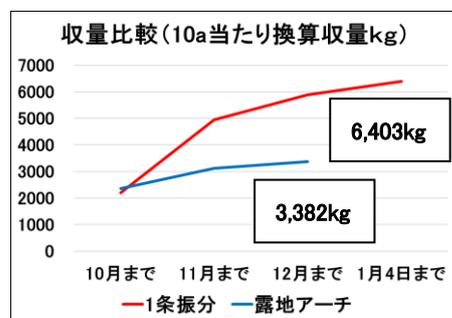
1月14日に開催した報告会では、若い新規栽培者もハウスの改修に意欲的であり、今後も普及に向けて推進します。【鬼北農業指導班】



【従来の整枝法(写真1)】



【1条振分摘芯整枝法(写真2)】



期待のかんきつニューフェイス「紅プリンセス(品種名:愛媛果試第48号)」

「紅プリンセス」は、紅まどんな(品種名:愛媛果試第28号)と甘平を親とする、高級かんきつ類の交配から生まれた新品種です。

糖度は成熟期の3月上旬に13~15度(Brix)程度、クエン酸含量は2月下旬~3月上旬に1.0g/100ml程度になります。

宇和島圏域では、令和4年3月から苗木の供給が始まり、JAえひめ南では約1万本の配付が予定されています。

地域農業育成室は、平成30年7月豪雨災害からの復興のシンボルとして、適地適品種の考え方を基本に、高収益化と労働分散が期待できる「紅プリンセス」の産地化を支援し、産地力の底上げを図っていきたくと考えております。

なお、種苗法の改正により、苗木から採った穂木を高接ぎするなどの自家用栽培向けの増殖は、書面等による許諾が必要となります。また、「紅プリンセス」(登録番号第6244088号)の商標を使用する場合にも県の許諾が必要となります。詳しくは、地域農業育成室に御相談下さい。

【地域農業育成室】

